

## 年度末の事故防止に最善を！

工事の工期末が集中する年度末は、事故が多く発生(図-1参照)しています。工事を早く完成させたいとの気の焦りと、年度末への工事の集中による熟練工・技術者不足が大きな事故原因と考えられます。また、経験年数の浅い技術者のヒューマンエラーによる事故も多く見られ(図-2参照)、年々増加の傾向にあります。

これから、年度末に突入しますが、各現場事務所においても、工期末を迎え工事が輻輳することになりますが、事故撲滅に向けた安全活動に取り組んで下さい。

### [事故要因]

- ◆災害の多くは、気の焦りから、作業の終盤、残工事、後片付け段階で発生している。
- ◆一つの工程の中で、苦しい時、ピークを無事に乗り越えた後の油断による。
- ◆寒さから集中力が欠ける。
- ◆忙しさから、安全管理が疎かになる。

### [事故防止対策(案)]

- ◆「心の隙」を突かれないように、作業開始前にKY・安全活動等を徹底する。
- ◆同種作業で過去に起きた災害事例やヒヤリハット事例を引き出して、事故防止に努める。
- ◆現場巡視を強化することにより、施設不良箇所や「油断」を発見する。

忙しい時こそ、現場巡視強化！



## 工期末が集中する年度末に事故が多い！

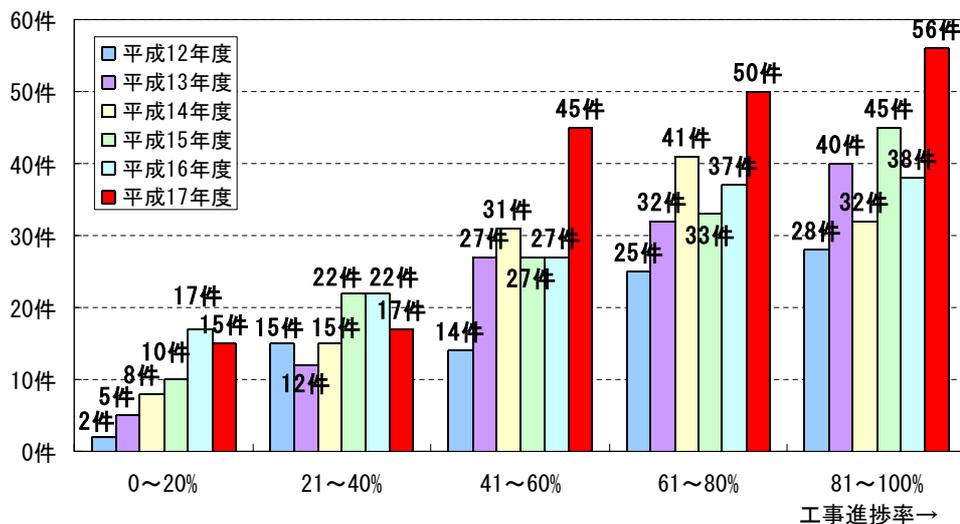


図-1 事故発生時期別件数

\* 左図-1 (事故発生時期別件数)を見ると、全体工期の中で前期(0~60%)に占める事故の発生については、年度によって多少のバラツキはありますが、平均20件です。

\* 後期(60~100%)になると、突出して事故発生が多くなり、過去5年間(平成12年度~平成16年度)では平均35件であるのに対して、昨年度は、50件を上回る事故が発生しています。



## 経験年数の浅い作業員の事故発生割合が高い！

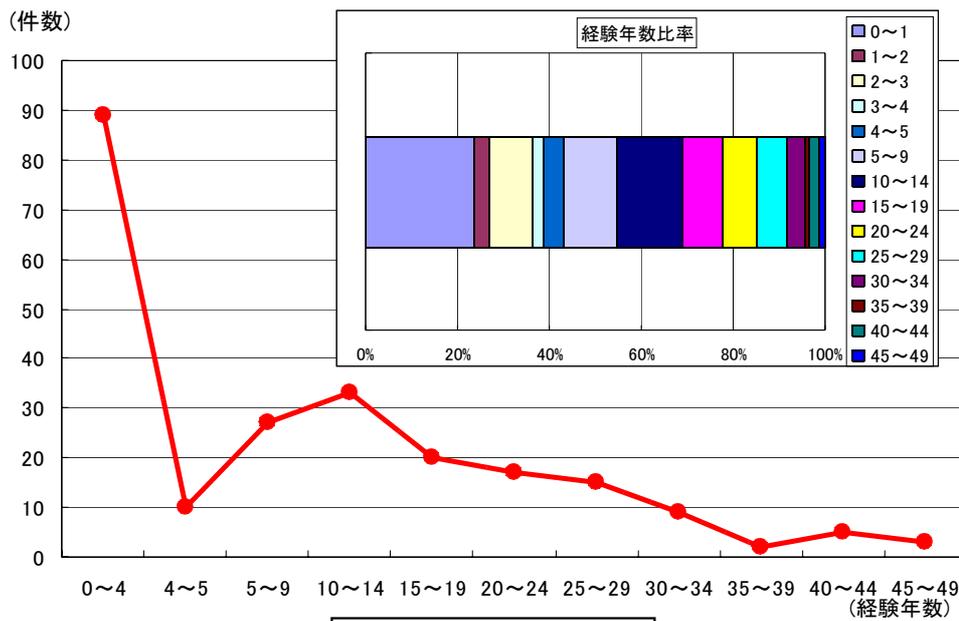


図-2年齢・経験年数

(H13～17までの直轄事故による)

- \* 左図-2（年齢・経験年数）を見ると、経験年数4年未満の浅い作業員が被災する事故が突出して多く、経験年数比率で見ると、約4割（39%）を占めています。
- \* 特に、1年未満が約23%を占めています。
- \* 経験年数10年未満では、全体被災者数の半数を占めています。

## 冬期作業における事故防止について！

これから、本格的な冬を迎えるにあたり、積雪地域では、除雪作業が行われることとなりますが、気温が急激に低下し、風が強く吹いているような場合は、部分的に路面凍結することが予測され、事故を誘発する原因となります。昨年度の近畿地方整備局管内では、除雪車が除雪作業中に高欄を壊す事故、薬剤散布車がスリップしてガードレールを壊す事故など、事故が6件発生しています。

### [事故原因]

- ◆ 除雪作業における事故原因を分析すると、直接の原因は、除雪車・薬剤散布車等運転手の不注意によるものです。

### [具体例]

- ◆ 降雪で支障となる構造物の確認が出来なかった。
- ◆ 回転半径の認識不足があった。
- ◆ 車庫入れの際に単純な後方確認不足があった。
- ◆ 慌てて急停止しようとしたため、スリップし追突した。

### [事故防止対策(案)]

- ◆ 降雪前に、支障となる構造物をハザードマップ等で表示し周知させるか、事前にポールを立てるなどして、注意喚起させる。
- ◆ 運転前に当該車両の回転半径、運転席からの死角等を含めた車両構造を再確認させる。
- ◆ 必要に応じて、誘導員に誘導してもらう。
- ◆ 慎重な運転操作を心掛けるよう指導を徹底する。

### ～冬期作業時の防止対策例～



### 《もらい事故対策》

路面凍結等により制動距離が長くなることや、一般車運転手の前方不注意等により、例年1～2件程度のもらい事故が発生しています。昨年度は、除雪作業中に4件のもらい事故が発生しており、路面凍結への注意や作業中には後方への注意喚起を徹底して下さい。

